

会議録

会議の名称	平成28年度 清須市行政改革推進委員会（第3回）
開催日時	平成29年3月29日（水） 午前9時30分～午前11時10分
開催場所	市役所北館2階 第1会議室
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 清須市行財政改革推進プラン（清須市第3次行政改革大綱）の策定・答申について</p> <p>(2) 行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等について</p> <p>(3) 平成29年度 清須市行政改革推進委員会のスケジュールについて</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>会議次第、委員名簿、配席図</p> <p>〔会議資料〕</p> <p>資料1 清須市行財政改革推進プラン（中間まとめ）に係るパブリック・コメントの実施結果</p> <p>資料2 清須市行政改革推進委員会（第2回）における主な意見とその対応について</p> <p>資料3 清須市行財政改革推進プラン（清須市第3次行政改革大綱）（案）</p> <p>資料4 清須市行財政改革推進プラン（清須市第3次行政改革大綱）（案）の概要</p> <p>資料5 行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等について</p> <p>資料6 平成29年度 清須市行政改革推進委員会のスケジュール（案）</p> <p>参考資料1 清須市第2次総合計画 実施計画（2017－2019）</p> <p>参考資料2 清須市財政中期試算（平成29年度当初予算ベース）</p>
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数	1人
出席委員	野田委員（会長）、齊藤委員、山本委員、川口委員、山田委員、高山委員、福田委員、中田委員

欠 席 委 員	綱島委員
出席者（市）	加藤市長、永田副市長、葛谷企画部長
事 務 局	〔企画部企画政策課〕 河口課長、忠内副主幹、藏城副主幹、杉原係長、石附主査
会議録署名委員	高山委員、福田委員
<p><b>1 開会</b> (事務局)</p> <p>ただ今から、平成 28 年度 第 3 回清須市行政改革推進委員会を開催します。 皆様には年度末の大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます います。</p> <p>私は、企画部企画政策課長の河口と申します。よろしくお願いいたします。 はじめに、事務局から出欠の状況をご報告させていただきます。</p> <p>綱島委員におかれましては、所用のため本日欠席という連絡を受けておりますの で、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、委員会の開催にあたりまして、加藤市長からごあいさつを申し上げます。</p> <p><b>2 あいさつ</b> (加藤市長)</p> <p>改めまして、おはようございます。</p> <p>皆様ご存知のとおり、清須市の花は桜でございますが、昨日、名古屋気象台の標本 木が開花したという報道がございました。</p> <p>4 月 1 日には、新年度最初の「清須市の四大祭り」であります、「春日五条川さく らまつり」が行われます。それと合わせてウオーク大会も行われまして、今回は甲冑 を着た武者隊の方に参加していただき、盛り上げていただく予定ですので、何とか 五条川の桜も当日は開花してほしいなと願っているところでございます。</p> <p>本日は第 3 回の清須市行政改革推進委員会ということで、委員の皆様におかれまし ては、朝早くからお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、4 月からの新年度は、昨年末に策定いたしました、清須市の新たな行政運営 の指針となる「清須市第 2 次総合計画」がスタートする年でございます。</p> <p>委員の皆様にご審議をさせていただく「清須市行財政改革推進プラン」は、第 2 次総合 計画で掲げる将来像や、7 つの政策の実現を目指すにあたって、その下支えとなる行 財政基盤の構築に向けた重要なプランでございます。</p> <p>前回の委員会では、具体的な行財政改革の取組項目などを含む、プランの「中間ま とめ」についてご審議をいただきました。</p> <p>本日の委員会では、前回の審議の内容などを踏まえまして、事務局からプランの案 を提示させていただいており、その内容についてご意見をいただいた上で、答申をい</p>	

ただきたいと考えております。

新年度から、このプランに基づきしっかりと行財政改革を進めていきたいと考えておりますので、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開催にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

よろしく願いいたします。

### 3 議事(1) 清須市行財政改革推進プラン（清須市第3次行政改革大綱）の策定・答申について

(事務局)

それでは、議事の進行を野田会長にお願いします。

(野田会長)

皆様、おはようございます。

本日は第3回、今年度最終の委員会になります。議事としては、次第にありますとおり三つございまして、一番最初がプランの策定・答申ということで、この後事務局からご説明いただくプランを、皆様の目でもう一度ご確認いただいて、その後に答申を行いたいと思います。

その後に、行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等、それから、事実上外部からの評価という形になっていく行政改革推進委員会のスケジュールについて、検討していきたいと思います。

それでは、まず初めに答申に向けての資料でございますが、「清須市行財政改革推進プラン」の修正案、その前に前回の委員会における主な意見、パブリック・コメントの実施結果も踏まえて、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

資料1 清須市行財政改革推進プラン（中間まとめ）に係るパブリック・コメントの実施結果

資料2 清須市行政改革推進委員会（第2回）における主な意見とその対応について

資料3 清須市行財政改革推進プラン（清須市第3次行政改革大綱）（案）

資料4 清須市行財政改革推進プラン（清須市第3次行政改革大綱）（案）の概要について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

資料1から資料4までご説明いただきまして、資料4は概要ですけれども、事実上

答申に関わる資料というのは、資料3ということになります。この資料3につきましては、前回皆様からいただいたご意見に即しながら、修正すべきところに下線を引いて、修正していただいたということでございます。

ただ今ご説明いただいた資料3について、修正の理由ですとか、修正した結果をお示しいただきましたが、これをもとにここで皆様に確認をしていただいて、答申をするということではあるのですけれども、委員の皆様から補足すべき点などがありましたら、ご意見をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

中田委員、お願いします。

(中田委員)

昨日、子育てに関する会議がありまして、委員の方から「子育て世代包括支援センター」と「子育てコンシェルジュ」という言葉について、どういうことなのかという質問が多くありました。

そこで説明を受けて、私も納得だなと思ったことがありまして、意見を申し上げたいと思います。

まず、資料3の16ページですが、「2 取組内容」の部分を補足していただいて、良いとは思いますが、「関係機関との連携による切れ目ない支援をワンストップで行う総合窓口」とありまして、「切れ目ない」というのはどういったことなのか、一般市民の方は分からないと思います。そこで、昨日の会議の中で、『「切れ目ない」というのは具体的にはどういったことなのか説明してください』という意見がありまして、事務局から『「切れ目ない」というのは、妊娠期から18歳までです』という回答があり、私も非常に納得できました。

「切れ目ない」と漠然と書く意図はあるのかもしれませんが、もし書いて良いのであれば、「妊娠期から18歳まで、切れ目ない支援をワンストップで行う総合窓口」と書くと、「ああそういうことか」と頷けるのではないかと思います。

もう1点、『子育て家庭が保育施設や地域の子育て支援事業を円滑に利用できるよう、相談・支援などを総合的に行う「子育てコンシェルジュ」を配置します』とあって、それでは一体「子育てコンシェルジュ」という仕事は何なのかといった時に、もう一度読み返しても、「子育て支援事業を円滑に利用できるよう」では、一般市民の方は「うーん」と思うのではないのでしょうか。

私も昨日の会議に出席していて、「子育て世代包括支援センター」と「子育てコンシェルジュ」がどう違うのか疑問でしたが、また素晴らしい説明がありまして、「子育てコンシェルジュ」というのは、悩んでいる人と一緒に行動する、例えば「市役所にこういう相談をしたいけれども、一人では行けないわ」という場合や、「子育てのサークルに行きたいけれども、恥ずかしくて一人では行けないわ」という場合に、「私が一緒について行くから心配しないで」という約割を担うのが「子育てコンシェルジュ」ということだそうです。

私もそれならよく分かるなと思いましたが、「子育てコンシェルジュ」というのは、皆様が困っている時に一緒に行動してくれますよという解釈をつけ加えると、読んだ時に「子育てコンシェルジュ」に頼もうとなるかもしれませんので、そのような文言を 16 ページにつけ加えると、具体的でよく分かると思いますが、いかがでしょうか。

(野田会長)

ありがとうございます。

16 ページの「取組 1」の「取組内容」に関してご意見をいただきました。

一つ目は、お伝えいただいた内容は「妊娠期から 18 歳まで」というお話ですが、「取組内容」の 1 行目に「妊娠期から子育て期にわたるまで」とありますので、子育て期が 18 歳で良いのかという部分はありますが、そこで受けているのではないかなと私は思います。

1 行目を切り離して 2 行目という話になると、分かりにくい部分はありますが、1 行目から読んでいただければ、妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対して、それに対応するために、関係機関との連携による切れ目ない支援、これは総合的にサービスを行うということで、ここでは「ワンストップ」という言い方をしていますが、他の分野でも使う言葉ですので、そこはご理解いただけるのかなと思いますが、そのための「子育て世代包括支援センター」の設置を検討していくという話であると思います。

中田委員、どうでしょうか。「妊娠期から 18 歳まで」というお話は、1 行目の部分で読めるのではないかなと思いますが、それでも「子育て期」という言葉を削って「18 歳」にすべきか、あるいはもう 1 回それを書くべきなのかということになると、ちょっと書きすぎかなという気はするのですけれども、どうでしょうか。

(中田委員)

「子育て期」を 18 歳までと言うとよく分かると思いますが、そこに色々なことが加わってきて、「子育て期」という曖昧な表現の方が良いのでしょうか。

(野田会長)

そうですね。妊娠している時から、子育ての期間というのは 18 歳前後を含めて、少し大きな解釈をしていただけたらと思います。

問題は二つ目ということで、事務局にもお伺いしたいのですが、要するに一つ目の色々なサービスの中に含まれる一つの機能として「子育てコンシェルジュ」があって、一つ目の方は母子保健なども関わるような大きな子育てに関わるのところ、二つ目はそうではなくて、子育て家庭が保育施設や地域の子育て支援事業を円滑に利用していただくために、相談や支援、サポートをしますということですね。

具体的に何をしていくのかということについては、4月以降、きっちりと検討していただく必要があるのですが、中田委員からお伝えいただいた内容、困っている方がいたら寄り添って一緒に窓口に行きあげるとするのは、一つの代表的なあり方かなと思いますが、「相談・支援などを総合的に行う」ということは書いてありますので、その内容は含まれると言っても良いのではないかと思います。もっと具体的に書くべきだということでしょうか。

(中田委員)

その方がよく分かりますし、困っている方がこれを見た時に、一般市民の感覚ですと「これは何だろう」と思われるのではないのでしょうか。

(野田会長)

例えば、具体的に書くとすると「相談・支援などを総合的に行う」の前に、「困っている市民に寄り添う」とか、そういった内容を書くということでしょうか。

具体的にどう書けば良いかというところまで、もし案があればお願いします。

(中田委員)

幼稚な表現ですが、「一緒に行動する」ではどうでしょうか。

(野田会長)

「困っている市民と共に行動する」ということですね。理想的なあり方とは思いますが、どこまで共に行動できるかという部分もあるかとは思いますが、皆様、いかがでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

確か前回の会議の中で、あまり具体的には決まっていなかったというお話があって、ここまでしか書ききれないという様なご説明をいただいた気がして、昨日の会議というのは多分担当課さんの方の会議だったのかなと思いますが、担当課さんの方ではある程度具体的になっていて、ただし、スタートする上では、その中で色々な意見を汲み取って、今後どのような方向にも行けるようにするという様なご説明であったかと思います。

そうすると、例えば「困った」と書くと、「困っていない人はどうなのか」ということで、「困った」と手を挙げられる人は多分良くて、手を挙げられないし、困っているのかどうかすら分からない人にも寄り添っていくという事業だと思いますので、「行財政改革推進プラン」の中では、ここまでしか書ききれなかったということで、後は具体的に担当課さんの方で、もう少し分かりやすく、市民に伝わる形で進めてい

ただけるとお思いますので、これが妥当なところなのかなと感じます。

(野田会長)

私自身、齊藤委員からお伝えいただいて、かつての議論をあまりきっちりと覚えていなかった部分がありまして、確かにそうだったかなという気がしていますが、他にどうでしょうか。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。

私の個人的な感想というわけではありませんが、「行財政改革推進プラン」という状態からすると、ここまでの書きぶりしか、かえって具体化しすぎてしまうと、担当課での動きを制限しかねないこともあるのではないかと思います。

また、個々により言葉の受け取り方というのは、すごく限定的なもので受け取られる方も中にはございますので、例えば前段の「切れ目ない」という文章も、妊娠期から子育て期までの「切れ目ない」とどなたかお答えされたのかもしれませんが、私はこの文章から考えるとそうではなくて、関係機関との連携、関係機関がばらばらにあることで、ぶつ切りになって単独行動しているものを、ワンストップにして連携させようというふうを考えていて、「切れ目ない」という表現を使っている、私はそういう文章だと思っています。

妊娠期から子育て期までの年齢的な切れ目のないことというのは前段に書いてあるものですから、二度書きしているわけではないと思いますので、この文章は整っているかと思っています。

下のことについても、「コンシェルジュ」というもの自体がどういうものなのか、「コンシェルジュ」という言葉を使うということが難しいことなのかもしれませんが、「コンシェルジュ」とは何ぞやという話になってきてしまうと、ここからは全然違う話になってしまいますので、「子育てコンシェルジュ」という名前で、総合的な支援を行う、寄り添って行動する方を配置しますと。それについての具体的な広報活動は担当課さんの方で、より細かく、手厚く、皆様に分かりやすいように、ターゲットとなる方たちに伝えていただくということが担当課さんにやっていただくことですよね。それをここに細かく書く必要は、基本的にはないと思います。これで全体を網羅して、どちらの方向にやっていくのかということが分かると思いますので、私はこれで良いと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

中田委員、どうでしょうか。お気持ちも分かりますし、この状態以上に細かくする

と、さらなる調整が必要になってくる部分もございます。

(中田委員)

分かりました。この「行財政改革推進プラン」の意図を分かっていたのかもしれませんが、そういう一般市民の意見として受け止めてください。

このプランは市民には配られるのでしょうか。

(野田会長)

配布はしないと思いますが、ホームページでは公開されると思います。

(中田委員)

そこで分からないことがあったら、子育て支援課とか、健康推進課に直接問い合わせれば良いということですね。

(野田会長)

そうですね。市民としてはですね。

ただ、中田委員からお伝えいただいたようなあり方というのは、最も理想的なあり方ですので、困られている方をいち早く「コンシェルジュ」の方から、問題発見のように早期の発見に努めてあげることが最も理想の話ですので、そこに向けて、今いただいたご意見を参考に、庁内でご検討いただくということですね。

そういう話は、この行政改革推進委員会の答申が終わった後でも、色々な担当者の会議の中で言っていていただくということをお願いできればと思いますので、ご了承いただければと思います。よろしいですかね。

そうしましたら、他にどうでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。

中田委員のお話を聞いていて、その関連で個人的な意見ですみませんが、プランの16ページを直す、直さないは別にして、なんとなくぼんやりしてしまうのは、そもそも現状の問題点をはっきりと書いていない、恐らく今ワンストップでできていないから必要という話なのだと思いますが、その根本の部分が書かれていません。

それから、どちらでも良いところかもしれませんが、「子育て世代」というのは一体どこからどこまでなのか、「子育てをしている方」という意味とは思いますが、「世代」というとよく分からないので、タイトル自体に「世代」という言葉はいらぬのではないかなと思いました。

今どういう問題があるから、こういう取り組みが必要なのだという、その文言がは



つきりと書かれていないような気がしました。意見ということでお願いします。

(野田会長)

今いただいたご意見につきまして、これを直接修正するというよりは、市民に説明する機会があった場合に、何故そういうサービスが求められているのか、何故それをやるのかということをごきちんとして回答するという、そういう趣旨のご意見ということでよろしいですかね。

そういう意味でいくと、16 ページの「現状と課題」の三つ目がそれに対応する部分で、ワンストップできていない、これは清須市さんだけの話ではなくて、国の中央政府と自治体との関係において、担当省庁の流れから、色々な政策をそのまま受けざるを得ない部分がございますので、そうすると分かれてしまうというのか、縦割りという言い方をしていますね。そうすると、受けている側の市民からすると、同じように一連でサービスを受けたいのに、これはあっち、これはあっちというような話で、切れてしまうということですね。そこをワンストップ、全体でということで、今回対応するという非常に重要な政策だと思います。

ただ、今高山委員がおっしゃられたように、これまでのことであるとか、あるいは「子育て世代」ということで、きちんとした定義はないかと思いますが、恐らく 20 代後半から 30 代、40 代くらいかなという気はしますが、一般的に言われているそういった世代の方々が含まれる世帯そのものに対してサービスを提供していくということ、もし聞かれる機会があれば、きちんとして説明していく中で、市民との色々な問題の共有化を図るべきだという意見ということで承りたいなというふうに思います。

他にどうでしょうか。

山本委員、お願いします。

(山本委員)

山本でございます。

計画自体については特に意見はございません。概ねこの方向で進めていただいて全く問題ないかなと思っています。

私の質問としては、資料 1 の部分ですけれども、パブリック・コメントの結果が出ていますが、質問としては二つありまして、まず一つは、結局 30 日間やったけれども 1 通、2 件だけとあえて言いますが、パブリック・コメントはこれくらいの数が一般的なのか、それとも比較的少ないのか、それとも大体ゼロだけれども 1 件でもあって「すごい」なのか、その辺りの感触を教えてくださいたいのが一つです。

もう一つは、市町村合併の部分です。市の対応を読みますと、合併については時期尚早ということは読めるのですが、「名古屋市との合併に関する関係市町の考え方には大きな隔りがある」とありますが、これが具体的にどういうことなのかと

いうのを教えていただきたいなと思っています。

実際、この資料を読ませていただいて、工場の地元出身の従業員に色々聞いたのですが、どちらかという若い世代でも合併はあまり好ましくない、むしろ清須市の小学校、中学校に通っているお嬢さんとかも、このままで、やはり地元愛をはぐくみたいという意見が多いので、この方向性、合併というのはすごく大きな考えなので、市としての考え方がどうあるのか、その辺りをお聞かせいただきたいなと思っています。

(野田会長)

ありがとうございました。

ここは事務局の方からどうでしょうか。

一つ目はパブリック・コメントの頻度というか、程度ですね。一般的な総合計画とこういったものを比べると、こういったものの方が圧倒的に少なくなるというのは全国的な傾向だと思いますし、現状としては、市としてどうこの結果を受け止めているのかということですね。

それともう一つは、市町村合併に関わるところで、関係市町の市民・議会・行政の色々な想いがあるということですが、合併に関わる考え方についてですね、どうでしょうか、もし回答できることがあればお願いします。

(事務局)

まずパブリック・コメントの実施結果ですが、昨年末に第2次総合計画を策定いたしました。これはこれからの市の全体計画になるのですが、こちらのパブリック・コメントの実施結果は、意見提出が7通、意見総数としては37件という結果でございました。今回提出が1通ということで、ちょっと少ない状況ではありますが、総合計画においても7通という現状でございます。

実施にあたっては、広報などを通じてパブリック・コメントの実施を周知しているところであり、できるだけ簡単に応募ができるように市内の公共施設に応募箱を設置するなど、できるだけ多くのご意見をいただきたいということで、パブリック・コメントを実施しています。

また、今回は概要版を合わせてお示しして、できるだけ内容を分かりやすく伝えていく工夫もしているところではありますが、このような結果となったというところでございます。

もう一つの、資料1の「市の対応」にございます、名古屋市との合併に関する関係市町の考え方の隔たりということですが、皆様ご存知のとおり、清須市は合併団体であり、合併を経験して今がでございます。こうした経験の中で、「市の対応」にありますとおり、合併が市民の皆様が真に幸せになるための手段の一つであるということは認識しています。

もう一つ大きな問題として、合併というのは関係市町の市民・議会・行政が一体となって初めて可能になるものだと認識しております。

今回の合併の議論は、北名古屋市さんが発信元でございますが、その中で2市1町でというような話が出ておりますが、北名古屋市さんから、清須市と豊山町さんにどうかというアクションがされる、またそこに名古屋市さんが入ってどうかという状況では今はございません。メディアなどでは合併という話が出ていますが、実質2市1町が一体になっているのか、市民・議会・行政が一体になっているのかという点で、ここでは隔たりという言葉で表現しているところです。

(野田会長)

ありがとうございました。

パブリック・コメントは周知も図ってやっていただいていますので、その結果少ないというのは、ものすごく良い計画なのか、もしくは制度そのものの問題だということですね。そもそもたくさん発言していただけるようなものではなくて、市民も外側から見ながら、ぱっとインターネットに出てきたものを書くくらいですので、そこまでの労力をかける程の価値を置いていない可能性もございますので、そこは制度の問題かなと思います。

合併に関わる話も、今の話がございましたし、私自身、合併するのは方法としてはあり得ますが、自治というのが基本的な大前提ですので、財政的にやっていけるのであれば、やはり自分達でやっていくというのが普通のあり方だと思います。そういう点では、今清須市さんは、他の自治体の先頭をきって、そういったことができる環境にあるというふうに考えています。

他にどうでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

今の市町村合併の話ですけれども、今回の計画の中でも特に触れられていなかったもので、私も特に意見を出さないようにしていたのですが、パブリック・コメントで出てきたので、要望させていただきたいと思います。

同じ世代であったり、少し上の世代、もしくはうちの若い女性の店員さんであったり、今回、北名古屋市さんの方でこういう話が出て、「清須市はどうなんだ」といった時に、「清須市もやはり合併した方が良い」と言う人もいれば、「どちらかという別にどちらでも良い」という意見を言う人も結構多くて、結局話をしていても、合併してどうなるのかということで、「今は別に不自由、不満足ではないのでこのままで良い」と言う人もいれば、「いや、合併するとこうなるのではないか」と言う人もいるのですね。

実際、私も「どう思う」と聞かれても、答えようがないというか、あまり興味がな

いというところがありましたので、パブリック・コメントでこういった意見が出てくるといことは、合併についてある程度市民の中で、もともと旧の西枇杷島町は合併しかけたこともあって、何となく市民の潜在的な考えの中にあるものですから、合併する、しないというのは将来的な話ですし、今はそこまでは考えていないということですので、それはそれで良いと思います。それについて聞かれた時に、市として答えられるようなもの、もしくは市民に「今、清須市はこういうふうを考えているのだよ」というものを、このプランでなくても良いので、何か別の方法でも良いですから、段階的に伝えていくことは必要なのかなと思います。よろしくお願いします。

(野田会長)

ありがとうございます。

まさに、市民と議会と行政でそれぞれ検討した上で、すり合わせていって、一つの収斂するような方向性を見出した上での議論になっていきますので、今川口委員が言われたことに対処をしようと思うと、そういったこともまたご検討いただくということですね。

他にどうでしょうか。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

先ほどの川口さんのご意見に対してですが、若い方はそういうご意見を色々お持ちかもしれないのですが、私の身の回りで色々聞きますと、今清須市は待機児童ゼロとか、すごく子育てしやすい、そういう環境にあるということなのですね。入学式にランドセルがいただけるということや、そういうことを色々考えると、名古屋市と合併した場合に、本当にそういうサービスがうまく使えるのだろうかとか、そういうことをすごくおっしゃる方がみえて、「今の清須は、今の清須で良いのだよ」という声がすごく多いのです。

私の回りではそういうことを聞きますので、若い世代と若干温度差があるのではないかなということも思いますが、そういう声もあるということで、若い方は若い方のお考えもありますが、私たちの年代くらいの方、それからお孫さんを持っていらっしゃるような年代の方々は、そういうご意見も多いということをお伝えしたいと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

名古屋市はどの辺りを見ながら名古屋市というのもありますので、イメージしている部分は結構色々あって、非常に重たいテーマでもありますし、一方で今ご議論いただいて、ここは行政改革推進委員会の場ではあるのですけれども、例えば合併という

ことを一つとってみても、我々の自治体をどう民主的に作り上げていくのか、すごく良い議論になっていくと思いますので、そういったことも踏まえた行財政改革というのがこれから、まさに資料1の「市の対応」にある市民と議会と行政の声が収斂していくようなご検討を、是非今後も続けていただければなというふうに思います。

さて、どうでしょうか。ご議論がいくつかあるかもしれませんが、もしこの場で言っておきたいということがあれば、承りたいと思います。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

パブリック・コメントに関してですが、私もやはりちょっと寂しいなと思っていますが、ただ、先ほど会長さんもおっしゃられたように、参加しないと声を上げないということもありますので、それを事務局の方はどういうふうに考えているのかなと思うところはありました。

あと、「意見に対する市の対応」のところ、すごく遠慮がちだなと思っていて、というのは、やはり財政運営とかも、もちろん立地や環境などが良いところもありますが、市も頑張っているというところはやはり言っていないと、その辺りがすごく行政が弱いところだと思うのですね。市民の方は要望をどんどん挙げるだけです、「いやいや、こんなに頑張っているのだよ」ということを、なかなか自分から言いにくいことかもしれませんが、やはりそういうところを強調することも一つなのかなというふうに思いました。

「行財政改革推進プラン」全体のことで、やはり国からの助言通知、全国的に色々な課題がありますので、国からたくさん来るところは重々承知をしています。通知があって実施するということも結構多くて、ただですね、清須市さんとして頑張って、色々なことにチャレンジしていくということもたくさんあると思いますので、そこが少し見えにくくというのか、やはりそこも遠慮がちなのかなというふうに感じる場所があります。

今後、地方交付税などは、頑張る地方への支援といった、創意工夫をして色々なことに取り組むところへ強化しようという制度になっていっていますので、是非清須市さんの環境とか立地を生かして、民間活用ですとか、色々なところで清須市をアピールする、反対に国からの助言というより、もちろんやるのですけれども、清須市の方から「清須モデル」で、色々な自治体に「こんなことに取り組んだら良いですよ」と言えるような取り組みもしてほしいなというふうに思っていますので、今後期待するところでございます。

最後にですが、市民の方がこれを読んでも分かるように、パブリック・コメントの少なさもそこに要因があるのかもしれませんが、今後WEBで公開するというので、ちょっと手間はかかりますが、それぞれ、例えば「子育て世代包括支援センターの設置」でしたら子育て支援課のページに飛ぶような形で、詳しくはそちらで見

ることができるような、WEBの中でもワンストップにしていけると良いのかなというふうに思いますので、お願いをしたいところでございます。意見ですが、以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

個々の非常に貴重なご意見が含まれていたと思いますし、パブリック・コメント、それから、清須市の取り組みをもっと強調してもよいということですね。非常に心強いご意見でございます。

あと、チャレンジしたところに交付税という話もありましたので、国もむしろ今のご時勢でいくと、清須市をアピールするモデルという話がありましたが、「清須モデル」というような形で、対応していくと非常に良いのではないかなという明るい話だと思いますし、個別具体的な話では、WEBの中でのリンクの話ですね。こちらもご検討いただければと思います。

どうでしょうか。この後、もしここでご了承いただければ、お一人ずつ簡単にコメントをいただいてというふうに思っているのですが、資料3の「清須市行財政改革推進プラン」について、この内容で委員の皆様のご了承を得たということによってよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

ありがとうございます。

そうしましたら、これでご了承を得たということにしたいと思います。

来年度からは、このプランに基づきながら行財政改革を進めていくわけですが、これまでの審議を通じての皆様のこととしたご意見や評価、ご感想、それから要望も含めて結構でございますので、お一人ずつ1、2分程度で、皆様にお任せしますので、今既にお伝えいただいたことを繰り返し言ってもらっても結構ですし、付け加えていただいても結構ですので、お願いできればと思います。

順番は齊藤先生から席順にお願いできればと思いますので、よろしく申し上げます。

(齊藤委員)

今発言をさせてもらったので、期待をするということで、以上でございますので、よろしく申し上げます。

(山本委員)

私も先ほどの発言の中で、方向性については全く問題ないということをお伝えさせ

ていただいております。

議論の中でありましたように、おおよその方向性を示して、具体的な肉付けは担当課の方で行うということですので、この後の議論で出てくる、どういうふうに改善していくのかというところにつながっていくのですが、こちらをベースにどう進んでいくのかというのをまた見ていきたいなと思っております。

本当に皆様、お疲れ様でした。

(川口委員)

3回の会議に参加させていただきまして、ありがとうございます。

私自身、そんなに政治というものに興味をもってやってきたことがないので、こういう会議に参加させていただいて、実際の案というのをしっかり作られてやっていくということが、ものすごく大変だということを実感させていただきました。うちの会社の方にもわざわざ来ていただいて、説明もしていただいて、すごい労力だなと思いました。これからも大変かと思いますが、頑張っしてほしいと思います。

あとは、私のような者と言ってもいけません、意見を聞いていただいて、色々な改正や、文言をつけていただいたりしまして、またインターネット上に出た際には、私も目を通させていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(中田委員)

私も齊藤委員の言われた「もっと自信をもって」ということを、本当に強調したいと思います。

私は名古屋市から清須市に嫁いできたのですけれども、名古屋市にいた時には、行政というのはすごく雲の上のような感じで見ていましたが、年齢もあります、清須市に来て、すごくアットホームで、とても良いまちに住んでいるなとつくづく実感しておりますので、私の得意なジャンルを生かして、今後とも意見を申し上げたいと思っていますので、よろしく願いします。

市民一般は、文句を言ったり、やってもらって当たり前ということがすごく感じられるのですが、そういう市民ばかりではなくて、市民を「自分たちでやるのだ」、「自分たちでやって、清須市を盛り上げていくのだ」という気持ちにさせるようなお手伝いができるように頑張りたいと思いますので、よろしく願いします。

(福田委員)

失礼します。

本当に私みたいな高齢者がこういう仲間に入れていただいて、色々お話を聞かせていただいて、本当に専門的な知識とか、そういうことがないので、いちボランティアということでこの会議に参加させていただいて、本当に勉強させていただ

いて、ありがたいなというふうに思っております。

ボランティアと一口に言うのですけれども、その人というのはすごく色々あって、「ボランティアをしてあげている」という、上から目線の方もかなり多くて、「やってあげているのにお礼も言わない」とか、そういうことをおっしゃるボランティアさんもいるということで、「えっ」と思うのですけれども、市民の方が自分の幸せづくり、生きがいでボランティアをするという、そういうことを皆様にもう少し考えてほしいなというふうに思っております。

ボランティアの立場としてはそんなことなのですが、「子育てコンシェルジュ」ができるということで、私も昨日、子育て支援の方の会議に出席させていただきましたのですが、本当に困っている人というのは、何から解決してよいのか分からないということがたくさんあると思うのですね。私も「女性の悩みごと相談」というものをさせていただいた時に、「本当に死にたい」というようなことをおっしゃってみえて、色々なお話を聞いていくと、その中にDVのようなものとか、それから生活費の、そういう経済的なDVとか、そういうものがあったり、それ以外のことで子育てとか、そういうことに悩んでいるということで、本当に悩んでいるという方は色々な悩みを全部背負って、悪い方、悪い方に行ってしまうものですから、「子育てコンシェルジュ」ができて、子育てで悩んでいる方が楽しんで子育てをできるような、そういうシステムができて本当に良いなというふうに思っておりますので、これを本当に実効性のあるものにしていただきたい、そんなことを願っております。以上です。

(高山委員)

私の方からは、プラン全体を見てきまして、総括的に思ったことだけ述べさせていただきますと思います。

例えばプランの7ページの「財政力指数」、「実質公債費比率」。こういったものは誰も分からないので、こういった分かりにくいことに逐一解説を加えていただいたのは、すごく良いことだなと思います。

さらに言わせていただくなれば、先ほどの「子育て世代」、あるいは「コンシェルジュ」という言い回しもそうかもしれませんけれども、「コンシェルジュ」は広辞苑に載っているのか分かりませんが、基本的には広辞苑に載っていない言葉はできるだけ避けていただいて、説明していただいた方が、パブリック・コメントなども恐らく出しやすいでしょうし、市民の方がぱっと見て、やはり言葉が分からないと、それだけで不満がたまると思います。恐らくプランに限らず、例えば市役所の窓口の対応とか、そういったところでもそうだと思います。専門用語を窓口の側は分かっているけれども、一般市民が一般に知らない言葉をぽんと使ってしまう。それだけで恐らく不満がたまっていくのだろうなと思います。そんなところを心遣いしていただくだけで、ひとつすごく市民から見れば透明性が高まったという評価になってくるかと思います。そんなことを思いましたので、お願いいたします。



(山田委員)

山田でございます。

総合計画の策定から参加させていただき、こちらの方でまた「行財政改革推進プラン」の方にも参加させていただいておりますが、仕事柄どうしても「重点改革項目4」の「健全な財政運営」というところに目がいってしまうので、こういうことを声高に言わないと、それも市民の皆様お一人おひとりに言わないといけない状況というのは、多分どこの市町村の方も直面されていることだと思いますが、まずこれを知って、一つひとつ改善していくというのか、良い状態に毎年毎年進んでいくことができれば、声高に言わなくても、市のイメージというのか、この市に皆様がやって来たいとか、住んでみたいとか、そういう方向に結果的になっていっているということを証明しているようなものだと思います。

特に、私が最初から携わっていた下水道のお話、これをやるか、やらないかというお話から会議に参加させていただいた覚えがあるものですから、何としましてもちゃんとやっていただきたいと思っていますので、この公会計というもの、公営企業会計を適用しながらやっていくのですが、この課の方たちにはこれを使うことで、これはやはりツールであるだけですので、これを使って何をしていくのか、これをするによってどうなっていくのかということ、担当課それぞれの方にやはり認識させていただいて、一つひとつ進めていただかざるを得ない、そこに注視していただきたい。

こういった会議というのは、すごく大きな方向性を持って皆様発言をして、その具体的なことを一つひとつ、細かく方向性を作っているはずで、それを担当課の方たちにも理解していただいて、よりそれが効率よく動くように進めていただきたいと思います。

短い期間でこれだけの資料をしっかりと作っていただいて、事務局の方には頭の下がる思いです。これだけの資料を読み込むのも大変かと思いますが、また振り返りながら、今後評価などをするようになるかと思いますが、準備をしたいと思えます。

ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。

最後に私からも一言、思ったこと、それから感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

まず委員の方々には、本当に鋭い洞察力と、また本音で、なおかつ生産的な議論を、短い期間ではあったのですが、すごく良い議論をしていただいたなと思っています。その都度修正もしやすかったですし、本当に生産的にうまく全部いったのではないかなというふうに思います。私自身、話をするのがうまくないので、

皆様に率直にそういったご議論をいただいたおかげで、ここまでまとめることができたのではないかと考えています。

それから、市長を始め職員の方々、市長からはこういった宿題を与えていただいて、まさに行政を知るという機会にもなりましたし、職員の方々にもご協力いただきながら、こういった非常に素晴らしい委員会になったのかなと考えています。ありがとうございます。

私はですね、本当に過不足なくうまく入れ込んでいただきましたので、これから具体的にこの計画を回していく中で、ご検討いただければなと思うのですが、私の興味でという部分もあるのですが、一つは、今、清須市の市民の方々に会う機会において個人的に思う部分というのが、良識のある市民が非常に確率的に多いので、まさにもっと地域に出て、ご議論いただくというようなことが求められるのではないのでしょうか。むしろそういったことをやっていけば、色々な行政の課題も知ってもらえますし、不必要な事業もなくなっていきますので、もっと身軽にやっていける部分もあるのではないかなと思います。まさに「清須モデル」というのが、そういったことをアピールもできますし、そういう形を作っていくのではないかなと思います。

それともう一つは、職員の方々、行財政改革というと定員管理とか、人の数とかいう形にすぐなってしまうのですが、やはりモチベーションとかやる気というのがすごく重要だなと考えています。それを職員が自分たちの言葉で、なかなかこういう計画に盛り込んだりすることはできないのですが、新しいことにチャレンジした場合にもっと評価されたりとかですね、あるいは直接的に何か成果は上がらないかもしれませんが、外の空気に触れるということで、研修という意味で言っていると思いますが、色々な場に参加されたら良いのではないかなと思います。それも1日の上でというわけではなくて、数日間行くということをして良いのではないかなと思ったりしますので、それは市と市の間だけではなくて、市と民間企業であったり、NPOとの間であったり、東京に行ってみたり、九州に行ってみたり、色々なことをされた方が、もっと新しい市の職員の文化ができるのではないかなというふうに思います。そういったことも含めて、齊藤先生が言われたような「清須モデル」みたいなものを作っていただくと、他の自治体の見本にもなるのではないかなと思います。

ということで、私のあまりうまくない議事の進行の仕方で大変申し訳なかったのですが、ここまでうまくいったかなというふうに思っております。

皆様からのコメントをもとにしながら、来年度からこのプランに基づいて具体的に進めていくということになりますので、皆様にいただいた意見を一つずつ大切に、ご配慮いただければと思います。

去年の12月から今年の3月まで、非常に短い期間ではあったのですが、充実した議論ができました。第1回の委員会におきまして、平成29年度から始まる「清須市第2次総合計画」に基づいた行政運営の推進を下支えするための、行財政基盤の構築に向けた方向性等を定めるという、そういった思いで、行政改革大綱の策定につ

いて、市長さんの方から当委員会に諮問をいただいたということです。諮問の趣旨を踏まえて、ここまで審議を行ってきましたが、本日「清須市行財政改革推進プラン」として取りまとめましたので、ここで加藤市長へ答申を行いたいと思います。

よろしくをお願いします。

清須市行政改革大綱の策定について答申します。

平成 28 年 12 月 21 日付けで諮問のありました、清須市の行政改革の推進を図るための行政改革大綱の策定について、清須市第 2 次総合計画に基づいた行政運営の推進を下支えする行財政基盤の構築に向けた方向性等を定める観点から、当委員会において慎重に調査審議を重ねた結果、別添のとおり取りまとめましたので答申します。

(答申書手交)

皆様のおかげで、今無事に答申を行いました。ただ今の答申文につきましては、委員の皆様のお手元に写しをお配りさせていただきますので、ご確認ください。

皆様には引き続きご審議いただく項目が残っておりますので、申し訳ございませんが、よろしくをお願いします。

#### 4 議事(2) 行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等について

(野田会長)

二つ目の議事でございます。「行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等について」ということでございます。

これにつきまして、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

資料 5 行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等について  
について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

ただ今事務局から説明がありました、議事の二つ目「行政評価を活用した事務事業の見直し・改善等について」に関しては、プランの中で具体的な取組項目として位置付けられているものでございます。それから、第 1 回目のこの委員会におきましても、その進め方について、委員の皆様からご意見をいただいたという経緯もございます。今回は具体的にできあがりしました「実施計画」と「財政中期試算」の内容も参考にさせていただいた上で、来年度からこの委員会におきまして行政評価のある種の外部評価ですね、職員の外側から評価するという、そういう役割を担っていくということも踏

まえて、行政評価全体の進め方などについて、委員の皆様からご意見をいただければと思います。

それでは皆様の方から、ご意見、ご質問等がございましたら承りたいと思いますが、どうでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

確認ですけれども、参考資料2の財政中期試算ですが、これは平成30年度から11億円を抑えないといけないという方向だと考えればよろしいでしょうか。これだけ減らしていかないと予算が組めないという話だということでしょうか。

(野田会長)

事実上組めるかどうかという言い方をすると、多分大丈夫だと思うのですが、非常に難しいのですが、先に私から説明させていただいて、不足があれば補足をいただきたいと思いますが、ここではまず当初予算ということであるので、4月からの予定をされたものでございます。それから交付税の額も、例えば平成29年度の当初予算のところを見てもらうと1,350とあがっていきまして、13.5億円となっていますが、事実上平成28年度では2倍とまでは言いませんが、22億円弱くらいになっているということがございまして、交付税もすぐに決まるものではないということもありますので、一部ここでは段階的に縮減はされてはいくのですけれども、もうちょっと膨らんでくるのではないかなというところがあるかと思います。

もう一つは、繰越金というものも今7億円くらいになっていますが、かなり厳しめに見ているということですね。あとは税金なども分からない部分がありますので、そういったものをかなり厳しく見た結果、平成30年度からは10数億円、10億円ちょっと不足するというふうになるので、それに対応して行財政改革とか事務事業の改革を行っていくと、そういう理解なのだと思います。事実上はかなりプラスになる要素はあるのですけれども、結構厳しめに見ているという、そういうイメージではありますけれども、事務局の方から、何か誤った点などがあればお願いします。

(事務局)

こちらの中期試算の策定につきましては、平成29年度の当初予算をベースに機械的に算出しております。物件費や扶助費などの歳出ですとか、地方税もそうですけれども、ある一定のルールに従ってずっと横に走っております。そのルールにつきましては、2ページ目にこういった条件であるということに掲載しております。確かに1ページ目右側の表の一番下に「財源過不足額」ということで11億円が出てきております。こちらの方につきましては、先ほど野田会長が言われましたように、このとおりになるのかと言うと、実質的にはそんなに差はないと思います。

なお、この中には地方債、1 ページ目右側の一番下の※印に書いてございますように、財源対策を目的とした特例的な市債、「臨時財政対策債」と言いますが、そういったものは含まれておりません。平成 29 年度におきましては「臨時財政対策債」を活用して予算編成を行っていますが、平成 30 年度以降には含まれておりません。また、野田会長がおっしゃられたとおり、地方交付税、こちらも不透明な部分はありますが、いっぱいいっぱい組んでいきたいというような状況ではありますけれども、※印の二つ目に書いてございますように、この 11 億円につきましては「臨時財政対策債」の発行、そして基金の更なる取り崩しということで埋まる見込みはあるのですけれども、行政改革を行って、更なる財政運営の効率性を高めていくということが、この目的であるということをご理解いただきたいと思います。

(野田会長)

高山委員、どうでしょうか。

なかなかこの話というのは難しい、行財政制度に関わる話になるのだと思いますけれども。

(高山委員)

なんとなく分かりました。恐らくは、話の中ではあまり気にしなくても良いのですね。

(野田会長)

私のイメージとしましては、ごめんなさい、間違っていたらご指摘いただければと思うのですが、例えばですけれども、中期の試算、5 年先とかですね。それを出している自治体は最近結構あるのですが、出していないところも割とあるのですね。それはやはり不確定な要素が結構含まれますので、でもそんな中で、ある程度機械的に、一定の法則に基づきながら出してみても、先を見据えて、ちょっと厳しめに見た上で、不足する部分を提示すると。その上で、行財政改革を進めるというかなり健全なやり方、非常に厳しいところではこういったことはできませんので、健全な形ではないかなというふうに私は考えておりますけれども、そういうふうにイメージいただければ問題ないかなと思います。

(高山委員)

ありがとうございました。

(野田会長)

皆様、どうでしょうか。議事の二つ目、事務事業の評価についてですけれども。齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

今ご説明いただいたように、事務事業について見直しを常にしていくというところで、すごく良いかなというふうに思っています。

ただ一つだけ、すごく懸念しなければいけないところは、例えば資料4の1ページ目、「第2次行政改革大綱の重点項目別の成果と課題」の「行政体制の再構築」で、職員数を減らしましたよというところなんです。今回の第3次のプランの中では、職員数を減らすとは言っていないのですけれども、適正化するというところで文言が載っていたかと思います。それで、今もう一つ進んでいるのが、今日朝のニュースになっていましたが「働き方改革」というところもあって、先ほど会長さんの方から、財政について不確定要素が結構多いという話がありましたが、まさにその辺りも、今後法制度の方でもどうなるのか分からないですし、それを受けてどのような取り組みをしていくのかということで、このプランが始まって、3年間の中でも結構変わるようなところはあるのかなと思います。変わらざるを得ないところと、あとは積極的に変えていくところがあるのかなと思いますので、必ずしも事務事業評価の中で、評価の指標がちょっとあてはまらないようなところというのは、今後十分注意していかなくてはいけないなというふうに思っていますので、議事録に残しておいていただいて、また事務事業の見直しをする時には、そういうところにも気をつけていただくというところでお願いできればと思います。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

今の意見は非常に重要な意見だと思います。具体的に評価を進めていく中で、国の制度、法制度等の改定・改正、あるいは方向転換に伴って、大分事情が変わってくるということもございますので、そこを見据えてということですね。机上でもって、ここがうまくいっていないからダメだとなったり、うまくいっているからこれに重点予算をとということを考えるにあたっては、国の方でどういう議論がなされて、どう改革していくのかということを見据えて、やる必要があるということでございます。

そのような形で進めていただければなというふうに思いますし、我々もそこは検討していくべき内容だと思いますので、お願いしたいと思います。

他にどうでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

質問なのですけれども、第1回の時にも説明がありました「実施計画」ということで、この場の考え方というか、意見の出し方に関する質問なのですけれども、事業が実施されて、それに対してやり方が良い、悪い、もっとこういうふうにした方が良い

ということを考えれば良いのかなと初めは漠然と考えていたのですけれども、今のお話だと、それもそうだけれども、お金がちゃんと使われているのかどうかということも踏まえて、意見を出し合わないといけないということでもよろしいのですかね。中期試算を見て「もっとこっちに予算を振り分けよう」、「いや、私はこっちの方が大事だと思うから、ここは押さえて、この政策に予算をもっと与えた方が良いのではないか」ということも踏まえて、意見を出させていただいた方が良いということなのでしょうか。どのように考えれば良いでしょうか。

(野田会長)

まずはですね、最初におっしゃっていただいたご意見で良いのではないかなと思います。具体的に、あくまでこういう事業の評価と、その一つ上の事業を束ねた施策の評価について、全部ではないにしても、一定の数、事務局からお示しされますので、それについてなぜ事業がうまく進まないのかとか、施策がうまく進んでいない場合に、その構成要素の事業とどういう関係にあるのかということが、その資料から分かってくると。その中には予算額とか、決算額とか、過去のデータとかも入ってはいるのですけれども、なぜうまくいかないのかということをお場で議論する。そこには一定の市の職員の方の評価も書かれていますので、そういったことを見据えて、それが自分たちの市民の感覚、あるいは専門的な見地から見て合っているのかどうかということをご指摘いただく、事業の良し悪しとか、施策の良し悪しですね。

それを踏まえて、最終的に、例えばこの委員会でも「これは重要だ」という話になったとか、あるいは「こう改善すべきだ」という話になったということで、市の職員の方で持ち帰って、次年度の予算要求の時に、これだけではないにしても、こういったものを使いながら、予算が重点配分されるといったことが決まってくるというだけの話ですので、ここでいきなり「これについて3割重点配分」というところまでは、検討いただかなくて結構かと思います。思いはあって良いと思いますので、「やっぱり子育ては必要だから」ということで、「これはもうちょっと」という思いを持って、事業のあり方などをご指摘いただくということは全然良いと思いますけれども、あまりそこまで、全体のシステムチックな、最終の落としどころのところまで整合性があるということをお意見で言う必要はなくて、事業の評価のあり方、これをご指摘いただければと思います。

(川口委員)

一つひとつの事業に対して、市民の代表として意見を出せば良いという形ですね。

(野田会長)

そうですね。市の側で評価したものについて、それはあくまで内部の評価ですので、外側から見て「その評価は甘い」とかですね、そういったことを言ってもらえればと

思います。評価の仕方について、評価するというイメージですかね。

(川口委員)

分かりました。ありがとうございます。

(野田会長)

他にどうでしょうか。どんな観点でも結構です。

非常に複雑なことをやられようとしていますし、そういう意味でいくとかなりきっちり、科学的にまずはやってみるということで、科学的に落としどころが見えない部分というのはたくさん出てくるのですけれども、まずは出発点としてはかなりきっちりやられようとしていますので、例えば指標値も、どうしても置けない事業は絶対に出てきますし、うまくいかなかったら、外部の大きな要因、景気の状態とかによってかなり引っ張られたりとかしますし、いきなり企業が立地したことによって色々なことがうまくいったりとかもしますので、そういったこともあるのですけれども、とりあえずは評価をするツールですね。色々な人に、多様な観点から見た時に、具体的にどう進んでいるのか、何が問題なのかということをも材料として提供しようという試みが、この中で分かると思います。

とりあえずは、こういう形で進めさせていただくということによろしいですかね。

「異議なし」の声

はい。複雑な部分が結構ございますので、またその都度、事務局なりにご質問いただければと思います。よろしく申し上げます。

## 5 議事(3) 平成 29 年度 清須市行政改革推進委員会のスケジュールについて

(野田会長)

そうしましたら、最後に今回の話のスケジュールですね。三つ目の議事について、事務局の方から資料の説明をお願いします。

(事務局)

資料 6 平成 29 年度 清須市行政改革推進委員会のスケジュール (案)  
について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

ただ今事務局から説明がありました平成 29 年度、来年度の清須市行政改革推進委員会のスケジュールの案ですけれども、来年度この委員会で審議いただく内容と、そ



れに向けて市の側で進めていく行財政改革の取組内容を関連付けて示していただきました。

当委員会の役割について、委員の皆様にご承知いただいているという前提ではあるのですが、こういったながれで進めさせていただくということを検討していますが、何かこのスケジュールについて、ご意見等ございましたら、いかがでしょうか。

事実上、恐らく7月あたりに第1回、10月、それから3月でというのが、実際にこれでやってみて、どれくらいのスケジュールでできるのかというのが、やってみないと分からない部分がかなりありますし、量的にも多いですし、やっていく中での問題も出てくると思いますが、来年度は、まず7月には外部からの評価の委員会を設けていただくということになります。

このような形でよろしいですかね。

「異議なし」の声

そうしましたら、来年度からのスケジュールの案ということで、こういう形で皆様にご了承いただいたということにさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

以上で本日予定されておりました議事を全て終了いたしますけれども、最後に全般的な話を通じてご意見、ご質問などがございましたら承りたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

そうしましたら、以上をもちまして、平成28年度第3回清須市行政改革推進委員会を終了したいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

それでは、事務局から事務連絡などがありましたらお願いします。

## 6 閉会

(事務局)

皆様、どうもありがとうございました。

本日答申をいただきました当プランの案につきましては、明日開催いたします市内部の行政改革推進本部での審議を経て、策定することを予定しております。

また、このプランに基づきまして、4月以降、行財政改革を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどスケジュールにつきまして説明させていただきましたけれども、7月に平成29年度の第1回委員会の開催を予定しておりますので、詳細が決まりましたら、あらためてお知らせをさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは最後になりますが、加藤市長からお礼のごあいさつをさせていただきます。

(加藤市長)

ただ今答申をお取りまとめいただきまして、ありがとうございました。

本当に熱心にご審議いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほどから色々なお話がございました。ご指摘とかご意見、それから要望、これらのことにつきましては、今後真摯に受け止めさせていただいて、行政運営に反映させていければと思っております。

先ほど「コンシェルジュ」という言葉がございましたが、私も初めてこの言葉を見て「これは何ですか」と言ったように、本当にはっきり言って、慣れていないと分からないのです。これは国の制度で、一貫したながれで、こういった言葉を使わざるを得ないということで使っているわけですが、市民の皆様の安心・安全の確保というのは、こういった色々な制度があっても、そこへいかに結び付けるのか。要するに、地域の隅々で暮らしている一人ひとりに何が起きているのかということ、皆で気付いて、色々な行政サービス、福祉サービスや子育てサービスが市にはありますので、早期発見・早期治療ではありませんが、そこへいかに結び付けるのかということが一番大事で、結び付けた後には、その制度をもう少し充実しなければいけない、変えていかなければいけないといった問題が出てくるのですが、まずそこに早く結び付けることが一番大事なことだと思っております。

ここでも「連携」という言葉が出てきますし、今度の第2次総合計画でも「連携」という言葉が出てきます。これが今、一番大切で、重要なポイントだと思っております。どんな事業一つひとつをとってもこれがポイントです。

従いまして、先ほどお話がございましたように、いかにして市が地域に情報を、「こういうサービスがありますよ」という情報を流して、そこで該当する人がいる場合に、気が付いた人に言ってもらおうとか、その人の助けで結び付けていただくとか、こういうことを繰り返さないことには、色々な施策があるのですが、システムだけで終わってしまうという話になりますので、そういうところに今後力を入れていきたいと思っている次第でございます。

今年度の委員会は本日が最後となりまして、新年度も引き続きお世話になりますが、よろしく願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

(事務局)

皆様、本日は長時間に渡りご審議を賜りまして、ありがとうございました。

以上で終了とさせていただきます。

問い合わせ先

企画部企画政策課

電話 052-400-2911 (内線3250)

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 高山 孝治

署名委員 福田 一子